



照明探偵団通信

vol. 75 Shomei Tanteidan Tsu-shin

夏休みこどもワークショップ：

東京川巡り～日本橋川・神田川・隅田川～

2016.0 8.03 荒木友里

夏も真っ盛りな8月上旬、涼をもとめてこども達と川巡り。川からみる東京の夜景に、新たな発見はあるのか。こども達のためにガイドさんにも乗船いただき、一同は出航しました。

■川巡り

日本橋から舟は出発し、隅田川へ。ガイドさんによる、舟から見える景色や建物の歴史についての説明を聞きながら川巡りスタート。

まず、うねうねと巡る高速道路の下を舟が進んでいきます。こども達は、高速道路のオレンジ色の光や、ビルの真っ赤な航空障害灯を指差して、あの光好きー！と、それぞれ口々に話をしていました。

大人も含めて、みんなから感嘆の声が漏れたのは豊海橋でした。フレームがくっきりとしたシルエットになり、四角い窓から温かい光が漏れているようなライトアップが施されていて、昼間とは全く違った表情を見せています。隅田川に架かる橋には、カラーライティングが多く使われていますが、この橋はシンプルに、梯子を横にしたような特徴的な橋の形状を引き立てる照明となっていました。

いよいよ隅田川にでて、高速道路の下をくぐりぬけると、ライトアップされたスカイツリーが真正面に現れます。みんながカメラを構えて、川巡りで一番のシャッターチャンスです。

地上でみるスカイツリーと違い、足元にほとんど他の建物が見えず、水のうえにずっと立ち上がった姿はとても綺麗でした。

神田川に入ると、また違った雰囲気のエリアに入っていきます。入り口となる柳橋は青と緑の照明で華やかにライトアップされていますが、橋をくぐると、所狭しと多くの小型舟がとまっていて、川の上に店が迫り出した佃煮やさんがあったり、昔ながらの雰囲気を感ぜさせます。川沿いの道にもあまり街路灯がないため、川幅が何倍もある隅田川から入ってくると少し薄暗く感じます。常時明るい東京の都心とは思えない景色に最初は驚いていたようでしたが、こども達のなかには、奥に進むにつれて、おばけが出そうでこわい、という子もいました。

最後は再び日本橋川に戻り、石垣の堤防や再建中の石造の橋など、歴史を感じさせるエリアを通りながら日本橋へ帰ってきました。面白かった！とこども達は満足した笑顔を浮かべていました。

毎回大好評な夜の東京川巡りをこども達とも開催したい、ということになり急遽企画した川巡り。今回は満潮時スタートということもあり、干潮より2M近く水位からのスタート。川から見る東京を満喫しました。



神田川を進む船のまわりにはビルがそびえたつ



川巡りのルートマップ



みんなの心をわしづかみにした豊海橋



キセノンライトで暗闇を照らす面出団長



日本橋を背景に集合写真

こども達と一緒に川巡りに参加して思ったことは、まだ小さいこどもは光を明るさやまぶしさではなく、主に色で評価しているのかもしれない、ということでした。時々、面出団長の持つキセノンが、暗闇の中でポツとつくと、その部分だけ色が鮮やかに浮かんで来て、綺麗だね、

というこどもも多かったです。日本橋川・隅田川・神田川の歴史的な背景を聞きながらの川巡りはとても楽しく、これまでと違う目線で東京を見るととても良いきっかけになりました。
(荒木友里)

第 54 回街歩き：渋谷

2016.08.05

久野弘祐 + 伊藤祐里子 + 伊藤万里菜 + 小松裕美

さまざまな要素がまじりあう渋谷。今回は渋谷駅を起点に山手線と井之頭線より北西の 90 度の範囲を 4 つの文化圏（東急文化圏、PARCO 文化圏、センター街、風俗街）にわけて、それぞれ夜の装いが違っているのかを調査。



渋谷を 4 つのエリア（PARCO 文化圏、センター街、東急文化圏、ホテル街）に分けて街歩き

渋谷の中でも特に賑わい様々な魅力を凝縮した渋谷駅ハチ公口前から放射状にエリアを 4 つに区切って街歩きしました。

各班に分かれ歩き出す前にスクランブル交差点周辺の、『これこそ渋谷』という光を調査しました。目の前の TSUTAYA ビルの電光掲示板、各ビルの照明、看板照明で溢れるこの駅前エリアの光が一番渋谷らしい！と、どの班も一致の意見でした。

■ 1 班：PARCO 文化圏エリア

1 班は、公園通り・スペイン坂付近をメインに探索しました。

このエリアは、2015 年 11 月に OPEN した modi があり、更に 1973 年に開店し若者に刺激を与え続けてきた PARCO が閉店 3 日前だったことで、これから渋谷文化を発信していく光と、1 つの歴史が幕を閉じる直前の光、その両方を感じながら探索できたと思います。

Modi のモニター画面のゴーストバスターズの仕掛けは街を歩く人を楽しませ、テーマパークのようでした。植栽の中に光るライトも綺麗で目立ちました。PARCO ビル壁面の照明は柔らかい光ながら目を引き、映画「シン・ゴジラ」とのコラボレーションもユニークでした。ファッションビルの照明は自然と視線が集まる仕掛けで、流行の先端に行く渋谷らしさを感じることができました。

意外だったのは街灯に対する無頓着さ。色温度の異なる照明を組み合わせながら統一感があまり感じられず、所々ライトが消えていたり、ファッションビルなどの魅力的な照明とは逆に残念なポイントでした。

どんどん変化する PARCO エリア、まさに文化のスイッチが入れ替わる面白いタイミングで街歩きできました。これから新たにどんな文化が発信されるのか楽しみです。（伊藤祐里子）

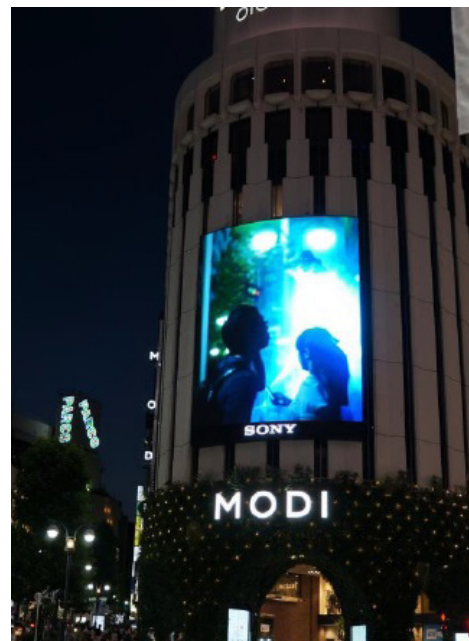
■ 2 班：センター街

2 班はセンター街・スクランブル交差点の光を調査しました。

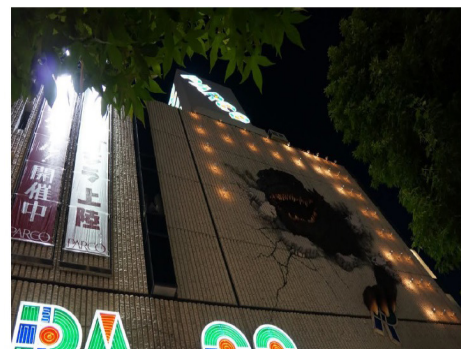
センター街は飲食店等のにぎやかな電飾看板が並び、これぞ渋谷という景色を形成しています。電飾看板はいかに目立つかを勝負をしているようで、看板を縁取る手法が多く見られました。そんなにぎやかで明るいセンター街にも街路灯はありましたが、周囲の光に埋没しており全く照明としての機能は果せていないことに対して「犯罪者」と評する声が挙がりました。こ時間や明るさに応じて制御の出来る街路灯に期待の音が挙がりました。

明るいセンター街の脇道に目をやると、暗い空間の中にポツンと浮かび上がる八百屋さんを見つけ、団員たちは吸い寄せられました。単にスポットライトを浴びた八百屋さんに引き寄せられたかのように思いましたが、照射物の色味に合わせた巧みな照明手法に「英雄」と評する声が多く挙がりました。

センター街を突き当り、井の頭通りを通って駅へと戻る道中には、飲食店が並ぶ景色とは対照的にアパレル店舗や百貨店が並びます。このエリアはアーティスティックな光がおしゃれな街を印象付けます。その一方でデジタルサイネージの華美な広告によって向かい側のビルが演色されてしまっていたことに、この日最大の「犯罪者」と評する声が挙がりました。



最先端の渋谷を象徴するインタラクティブなメディア看板



数日後には閉店する PARCO のあたたかなファサード照明



周囲の飲食店の光と調和する物販店舗（ダイソー）



にぎやかな（センター街の）光に引き込まれる団員達

スクランブル交差点まで戻ると、相変わらずカオスな光が景色を作っています。煌々と光るあたりは省エネの観点からすると「犯罪者」のように思われがちですが、これこそ渋谷の象徴であり、この光に集まる人々を目の前にすると誰もが「英雄」と認めざるを得ません。(久野弘祐)

■ 3 班：東急文化圏

3 班は商業施設が立ち並ぶエリアとホテル街エリア、そして住宅街エリアの3つを分断する3つの通り(文化村通り、本店通り、道玄坂)を中心に、東急文化圏を彩る光を探す街歩きを行ないました。

まずは SHIBUYA109 から東急本店へと続く文化村通り。若者を中心に賑わう商業施設と幅広い年齢層を対象とする東急本店をつなぐ通りなので、通りを進むにつれ光の変化が見られるかと予想していたのですが、実際は局所的な光の量のムラがあり、「さっきの場所は目が疲れる」「ここは落ち着ける」などと目で光を感じながら進んでいきました。640lx,5000K と高照度で真っ白に光り輝くカメラのキタムラの光と、それとは対照的に 350lx,4000K とドン・キホーテにしては地味な光。そして、眩しくグレアを与える H&M の広告用の照明など、数々の犯罪者が存在していました。

そんな通りを抜けると対照的に、東急本店は最低限の光を放ち、静かに、優しく周囲を照らしていました。通りや住宅街など、どの方面から見える赤い東急マークは堂々としており、周囲を優しく見守るように照らし、渋谷を発展に寄与した東急の存在感を感じさせました。

東急本店裏の住宅街はとても閑静で、「本当にここは渋谷？」という声がかかるほど街灯のみがわずかに照らす薄暗い空間でした。住宅街としては暗すぎて不安な印象を与えます。

住宅街から本店通りに出ると、今度は薬局や青果店などわずかながら生活感のある通りに。しかしその通りを彩るのはやはり統一された光ではなく、赤や緑といった様々な色でした。文化村通りや道玄坂と比較するとあまり賑わいのある通りではありませんが、そんな通りでも渋谷らしく、「何でもあり」の光で彩られていました。文化村通りに戻り道玄坂小路に入ると、狭い道に立ち並ぶ飲食店がひしめき合っています。街灯は点いていたり消えていたり様々で、街灯は必要なく看板の照明だけで十分であることを教えてくれているようでした。

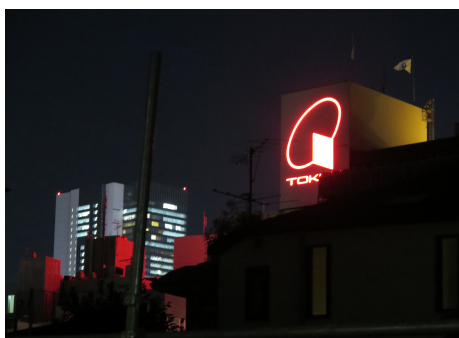
道玄坂に出ると、「これぞ渋谷」な景色が広がります。道幅が広く緑が多い為不快感は感じませんが、坂道を埋め尽くす袖看板や広告の光がカオスを生み出し、人も光も賑わっていました。3 本の大通りを中心に小さな道も含め様々な通りを歩きましたが、どの通りも印象が全く異なり、大通りから 1 本細い道に入るだけで雰囲気ガラッと変わるので、渋谷の奥深さと面白さを改めて実感できました。(伊藤万里菜)

■ 4 班：風俗・ホテル街

4 班は“風俗・ホテル文化圏”と題してマーク



文化村通り 袖看板が渋谷の賑わいを創出する



赤い東急のコポレートカラーがひととき目立つ



犯罪者 No.1 に選ばれた H&M の看板を照らす照明



奇抜さを競いあっているホテルの照明



昭和の雰囲気を残すしぶや百軒

シティ横の居酒屋通り→百軒店→ライブハウスや映画館の並ぶ通り→ホテル街を歩きました。渋谷の魅力の1つは表通りを1本入ると全く雰囲気の異なる通りが突然現れる表情の豊かさにあると思います。そこで今回は裏通りを中心に偵察致しました。

駅に近いパチンコ店や居酒屋が立並ぶ通りは白く眩しい印象(1500lx/5000k)でしたが、駅を離れ、坂道を上るにつれ徐々に暗く、落ち着いた雰囲気(50lx)になり誘われるような店の光も増えてきました。

人気があったのは百軒店の千代田稲荷神社の隣にある赤い壁のラブホテルです。神社の雰囲気を尊重したかのような、比較的落ち着いた入口の様子が高評価でした。鳥居の提灯と赤い壁面への光がある種の一体感を醸し出し、夜ならではのコラボレーションと呼んでもよいでしょうか。ホテル街の照明の多くが目立

とうと奇抜さを競い合い、ばらばらな印象があったのとは対照的でした。

不人気だったのはライブハウスの植栽に対する緑色のランプです。更にすぐ隣には電球色で照らされた植栽が並んでおり、不自然さを強調。雰囲気を損なう・無神経であると非難が集中しました。

また4班のルートから見える“渋谷らしい光”についても推理を試みました。①周りの環境を尊重しながらも主張・個性の見える光、②表通りの雰囲気と一変する過去や懐かしさを感じさせる光、にヒントがありそうです。

かつての繁華街である百軒店やその周辺では渋谷の過去の光を垣間見たのではと思います。渋谷の街が育んできた多彩な光環境が今現在進行形の大规模再開発の中で残っていくことを願います。(小松裕美)

第52回研究会サロン@照明探偵団事務局

2016.09.01 岩永光樹

8月の渋谷街歩きのレビューを開催。
各自の意見をまとめ、内容の充実した
資料を持ち寄り発表しました。



「カオス」が評価されたスクランブル交差点のパノラマ写真

今回のサロンは8月5日に行われた「渋谷街歩き」の調査結果を各班が発表しました。今回の街歩きでは各班の班長が全員ニューフェイスという新しいスタイルでサロンも一層盛り上がりを見せました。

一班は「谷を彩る光を探す」というスローガンを掲げ、パルコ文化圏を調査していました。一班の英雄はパルコファサード、MODIのモニター、QFRONTのモニター、appleのファサードと象徴的な店構えをした建物のファサードに票が集まりました。一方犯罪者はというとファッションビルのまぶしい看板灯やランプが切れていた街路灯など、照明効果が不適切なものに票が集まりました。一班は色温度、演色性評価指数、照度を綿密に記録してみなを驚かせました。調査の感想では変わりゆく渋谷の街並みに期待をよせつつ「渋谷らしさ」が残ることを希望する声もありました。

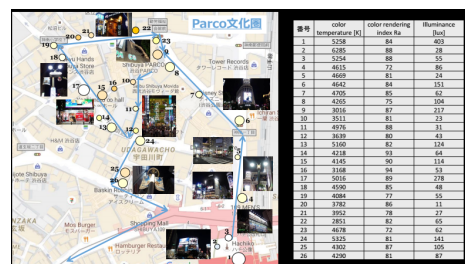
二班は渋谷スクランブル交差点をパノラマ写真でおさめ、渋谷の「カオス」をあえてポジティブに評価しました。スクランブル交差点・センター街を調査した二班は英雄にQFRONTのモニター、スターバックスのサイン、野郎ラーメンのやわらかい明るさの看板、八百屋の灯り、FOREVER21にBershkaとやはり上品だったり、情緒のあるファサードやサインに票が集まりました。逆に向かい合ったビルの壁面を照らしてしまうほどの明るさのサイネージや煌々と光るドラッグストアなど節度の無いファサードやサインを犯罪者として選びました。BIGECHOの店内へとつづく光階段には「歌番組のセットのようで気分が上がる！」というコメントも寄せられました。

東急文化圏を調査した三班は落ち着いた明るさの文化村ホールを「住宅街への配慮か?」、「光で主張しないのは自信のあらわれでは?」と推測しました。白すぎて調和がとれていないカメラショップのファサード、歩道に刺すようにま

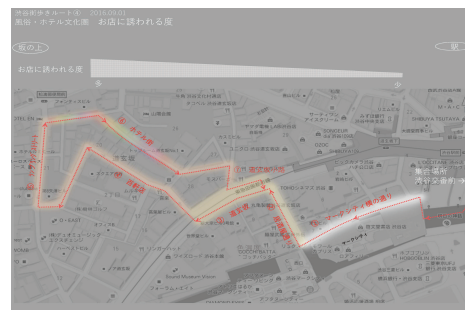
ぶしいH&Mの看板灯が犯罪者と評価され、静かに凍と存在している東急本店の看板や広告の有無で使い分けができる街路灯が英雄として選ばれました。ラーメン屋の置き形の看板を照らすための床置きフラッドライトの照射がずれていた点に関しては「渋谷らしいストーリー性を感じる。とても魅力的な犯罪者だ」と興味深い議論も繰り広げられました。

風俗・ホテル街を調査した四班は「誘われる度」と「渋谷らしさ度」というふたつの独自の観点を新たに取り入れ、英雄と犯罪者を選定しました。英雄には千代田稲荷神社に色味をあわせた隣接するホテルやホテルアラモンドのレトロなサイン、喫茶ライオンのあえてライトアップされていないファサードが選ばれました。犯罪者にはユーロスペースの調整されていない看板用スポットライトや、コスパが悪い道玄坂の内照式看板などが選ばれ、クラブアジアのエントランスにあった一灯だけ緑色をしたランプには「色合いが合わない」、「この場に合わない」、「メンテナンスしていない怠惰さのあらわれ」などの厳しいコメントが寄せられました。調査の感想では「面白かったのは班員それぞれ人柄が垣間見える観点や評価の違い。それが一番の発見!」と街歩き自体のおもしろさを表現したコメントでもでした。

終わりに初参加メンバーから「街路灯の大切さを思い知った」、「渋谷という街を照明という視点でみれて新鮮だった!」、「苦手だった街の雑多感がおもしろく思えた」などの貴重なコメントもいただきました。団員のさまざまな意見や感想が飛び交う中でやはり一番耳にしたのは再開発が終わりを迎える2026年の渋谷の街並みへの期待でした。海外の観光客からも注目度高い渋谷という街の魅力を再認識する調査となったのかもしれません。(岩永光樹)



一班の綿密な調査レポート



和やかな雰囲気サロンの風景

【照明探偵団の活動は以下の 20 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社
岩崎電気株式会社
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
株式会社遠藤照明
パナソニック株式会社
ERCO / ライトアンドリヒト株式会社
大光電機株式会社
株式会社 YAMAGIWA
マックスレイ株式会社
ウシオライティングジャパン株式会社
DN ライティング株式会社
東芝ライテック株式会社
コイズミ照明株式会社
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社
ルイスポールセン ジャパン株式会社
湘南工作販売株式会社
トキ・コーポレーション株式会社
山田照明株式会社
株式会社 Modulex
三菱電機照明株式会社



探偵団通信に関してのご意見・ご感想等随時受付中です！

お気軽に事務局までご連絡ください。